

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造

松原祥子

はじめに

弘化四年（一八四七）九月、松江松平家九代藩主齊貴は、孝明天皇の即位に際し、將軍徳川家慶の「御使」として上京した。上京を言い渡された四月八日から入念な準備を重ね、九月二日に壮大な行列を組んで赤坂の松平家上屋敷を出立したのである。十五日後の九月十七日に京都へ到着、御所へ参内し、九月晦日に京都を出立、十月十二日に赤坂上屋敷に帰着している。

第一章 齊貴上京に関する資料

松平齊貴上京に関する資料としては、主に左記の五点が挙げられる。以下、それぞれの資料の概要を述べる。

1 「松平齊貴上京行列図」

東京国立博物館所蔵、全五巻。松平家十三代当主、松平直亮氏が寄贈した松平家資料の一つである。上京行列の様子を描いた巻物となっており、五巻全て並べると全長一〇六mにも及ぶ。「齊貴公御上京之圖」と書かれ

た木箱に納められ、木箱側面には「嘉永七寅五月／月英院様□／御□被下進候御□之内」と書かれた貼紙がある。月英院は齊貴の父、齊恒の正室であり、嘉永六年（一八五三）九月には没している。文字がかすれて判読できない部分もあり、詳細は不明であるが、少なくとも嘉永七年（一八五四）以前にこの絵巻物が作成されたと考えられる。昭和十六年（一九四一）に編纂された「松江市誌」^①には、齊貴の上京について、「其鹵簿の模様は繪巻物數巻に収められ松平伯爵家に保存せられてある」とあるが、まさしくこの行列図のことであると考えられる。

五巻目の末尾には、行列の最後に江戸赤坂上屋敷の門が描かれ、「藤原雅純謹画（白文方印（陶山□□）（朱文方印（圓々齊々））」とある。作者は幕末の松江藩お抱え絵師、陶山勝寂と思われる。陶山勝寂は名を「雅純」と言い、江戸の狩野勝川院の門に学んだ。^②「烈士録新番組」^③には十八石五人扶持とあり、「御絵師」と記される。陶山家は勝寂の高祖父にあたる十三郎が享保九年（一七二四）、「郡足輕」を仰せ付けられたことに始まる。代々萬役人を務めていたが、勝寂の父・文超が願ひ出て江戸の狩野養川院のところへ絵の修業に行ったことから、以後、松江藩の絵師として務めることとなる。絵図御用に出精し、天保三年（一八三二）には御細工所筆頭格に仰せ付けられる。勝寂は初名を「重太」といい、三男として生まれたが、兄の次郎

太が病身であったため、嫡男となった。父と同じ狩野派に学び、数々の絵図御用に勤めた。特に斉貴に好まれたらしく、安政六年(一八五九)には隠居した斉貴から「寂」の字を拝領し、狩野勝川院から「勝」の字を用いることを許され、「勝寂」と改号した。同年五月、「家業格別就令出精」として、士列に取り立てられ、新番組へ入ったのである。有名な作品としては、「松平直政初陣図」⁵や「松江城下四季眺望之図」⁶がある。細密な筆致を得意とし、「松平斉貴上京行列図」においても人々の表情や装束まで細やかに描かれている。

2 「御上京一途」

人間文化研究機構 国文学研究資料館所蔵。「出雲国松江松平家文書」のうち、冊子三十二冊と絵図十四枚に渡る膨大な資料群である。上京までの経緯、道中、行列の構成、供の人数、御所参内の手順、その他上京にかかわる一切の文書関係がまとめられており、詳細を知ることができる資料である。

3 「松平斉貴上洛行列絵巻」

松江歴史館所蔵。折本形式の絵巻物で全五冊。1の「松平斉貴上京行列図」と同じ構図、人数であり、人々の体の向き、表情なども酷似している。ただし、装束や馬などに施される彩色はかなり異なっており、写し、あるいは下書きであると思われる。

4 「雲州侯御上京御行列」

島根県立古代出雲歴史博物館所蔵。1の「松平斉貴上京行列図」の写し

か下書きと思われる三巻の絵巻物だが、うち一巻には「雲州公御上京御行列 五巻之内 第四巻目」と裏書がある。これは、「松平斉貴上京行列図」の四巻目冒頭部分に相当する。ただし、途中で途切れ、藩主の行列の後半部分とつながっている。別の一巻は藩主の行列の途中から始まり、途中で終わっている。さらにまた別の一巻は、最初の巻とつながり、途中で終わっている。つまり、「松平斉貴上京行列図」の三・四巻部分に相当するが、ばらばらの状態になっていたものを誤った順番で巻物に表装されたものと考えられる。

5 「松平斉貴上洛繪巻行列明細書(写本)」

東京大学史料編纂所所蔵。大正末頃写されたと思われる。「松平斉貴上京行列図」の明細を記したもので、人々の役職と人数が記される。人数の間違いや道具を「一人」と数えるなど一部誤りもあるが、1の「松平斉貴上京行列図」をもとに記されたものと考えられる。

第二章 「松平斉貴上京行列図」と「御上京御行列帳」との比較

前章に上げた資料のうち、斉貴の上京行列を視覚的に知ることができる史料が、「松平斉貴上京行列図」(以下「行列図」)である。五巻の絵巻物には行列に加わった供の人々や馬、数々の武器、道具類が彩色豊かに描かれ、当時の豪華絢爛な大名行列を今に伝えてくれる。しかし、絵巻物であるがゆえに、行列の総人数、構造、人々の装束など、どこまで実態に忠実に描かれているか不明である。この史料の性格を正しく理解するためにも、松平家が残した上京に関する文書群との比較検討が必要となる。

2の「御上京一途」には、「御上京御行列帳」(以下「行列帳」と名付けられた史料が含まれている。これは、順番にどんな役職の者が何人、どのように並んでいたかを記したもので、行列の構成、人数、装束の特徴まで知ることのできる史料である。「松平齊貴上京行列図」との比較を試み、行列図が行列に加わった人数のどこまでを描いているのか検討することとする。

1 「御上京御行列帳」の概要

まず、「行列帳」の内容を説明する。縦四十一cm×横十四・二cm×厚さ〇・三cmの横帳で、外題には「御上京一途 十一上」「御上京御行列帳」と貼紙がある。行列に参加した人々の役職、身分に始まり、人数、装束、並び方、提灯の位置、隊列の構成などもわかるようになっていいる。この帳面は全部で十五の項目に分かれており、上京時だけでなく京都に入った後や御所への参内、また桑名く佐夜間の船便の船組も記され、様々な場合にに応じてどのように行列が変化するのか示している。この中で、今回参考とするのは、主な行列を記した「御上京御往来御行列」と、供の藩士たちの行列を抜き出した「御上京之節余勢行列帳」の二つである。大名行列は、一つの大きな行列の中に小さな行列がいくつも組み込まれるという重層構造を持っていた。小さな行列は、それぞれの役目を果たす藩士たちの行列であり、こ

れらを記したのが「御上京之節余勢行列帳」である。

2 史料比較から見た「松平齊貴上京行列図」の特徴

「行列図」と「御上京御往来御行列」を比較したものが表1である。供の藩士の行列については、「御上京御往来御行列」には名前しか記載され

ていないため後述するが、供や道具、馬などの配置がほぼ一致していることが見て取れる。とどころ人数が合わない部分や、「御供廻り」、「供若黨」、「供草履取」など、「御上京御往来御行列」に数がはつきり書かれていないために照合できない部分もあるが、大きく構成が異なる部分は見られない。さらに特筆すべきは、添え書きされた供の装束の様子が、「行列図」に忠実に反映されていることである。着物の模様や色合い、羽織を着用しているか否か、脚絆か股引か、すべて区別されて描かれている。

一方、供の藩士の行列については、「御上京之節余勢行列帳」と「行列図」を比較して検討する。「御上京之節余勢行列帳」には、藩士の役職名とその行列が記されているのみであるので、供の藩士たちの役職と名前を一致させる作業が必要となる。まず、先ほどの「御上京御往来御行列」に記された藩士の名前と、「行列図」に描かれた具足櫃などに記された藩士の名前を照合する。さらに、「御納戸二人」、「御扈從四人」など、それぞれの名前まで記されていない部分については、「御上京一途 十三」の内の「御上京御供惣名前并御渡物」に書かれた御供の名前と役職を参考に照合する。なお、この史料に上げられた供の人数は、士分が百十二人、御徒以下が百三十一人に上る。これは全体の総数であり、一連の上京行列にこれだけの人々が関わったことがわかる。

これらを参考に見ていくと、「御上京御往来御行列」に記された江戸・京都出入の際の人数と役職・名前が一致する。これをもとに、「御上京之節余勢行列帳」に記された藩士たちの行列と、「行列図」とを照らし合わせたのが表2である。

「御上京之節余勢行列帳」は全体として人数が詳細に書かれてはいないため、「行列図」との正確な比較は難しい。ただ、行列の構成や道具などの比

較は可能である。家老の乙部九郎兵衛の行列を見てみると、行列の道具や人々の順番はほぼ一致しているが、「御上京之節余勢行列帳」には記された乙部九郎兵衛の与力と乙名の行列は「行列図」にはない。同様に、三谷忠太郎の乙名についても記されていない。道中のどこかでこれらの行列が加わったことが想像される。また、「御上京之節余勢行列帳」では藩士たちは駕籠に乗った状態で記されているが、江戸と京都出入りの際は乗馬することとされていたため、「以下馬上之面々江戸 御發駕并京都 御出入之節／乗馬其節柄杓持沓籠共跡箱之次江線下駕籠者／乗馬之所江下ヶ可申事」と添え書きされている。「行列図」を見てみると、馬柄杓と沓籠、駕籠の位置が添え書きの通りに配置されていることが分かる。ちなみに、者頭以下の者は、馬を連れていなかったらしく、「御者頭以下乗馬無之二付／乗馬之砌ハ其節御貸馬御渡二相成候事」とされている。「御上京之節余勢行列帳」には沓籠なども記されていない。他にも、駕籠を持つ六尺や道具持ちの交代要員が記されていないなど、一部の省略は見られるもの、「御上京之節余勢行列帳」と「行列図」はおおよその照合ができることが分かった。同じように見える藩士たちの行列も、その格式によって連れることのできる供の数が定められており、それを忠実に「行列図」に描いていることがうかがえる。

以上のことから、「行列図」は、江戸を出立する際の上京行列をほぼ正確に描いていると言える。それならば、この二つの史料をもとに、上京行列の構造を考察することが可能である。次からは、行列の構成と参加した御供がどのような人々であったのかを見ていく。

第三章 上京行列の構造と供の藩士たち

武家の行列とは、本来戦場に赴く姿を基本としている。そのため、家格に相当する家来と武具、馬を引き連れ、軍事力を備えていることを示す必要があった。行列の基本的な陣形は、①前線部隊、②藩主を中心とする本陣、③藩士たちの騎馬隊、④輸送部隊の四つで構成され、この順に行軍することを「押」と呼ぶ^③。一方、斉貴の上京行列は、見たところ大きく分けて三つのまとまりで構成されている。前線部隊、本陣、騎馬隊である。最後に輸送部隊となる「小荷駄」が来るはずだが、ここでは省略されているようである。以下、それぞれのまとまりごとに上京行列の構造を考える。

1 武具、進物の行列と押の藩士たち

「行列図」の第一巻と第二巻にあたる部分は、軍隊としての①前線部隊を示し、出陣の際の兵力となる。行列の最初に登場するのは注進三名と足輕八名、そして雨具を納めた合羽籠を持つ日雇が一名である。次に、葵の紋の付いた衣を掛けた「衣御馬」の行列が続く。押方一名に始まり、「衣御馬」が五頭、それぞれ横に馬の口を取る中間がつき、後ろには馬柄杓^{まびしやく}（馬に水を与える）、沓籠^{くわむら}（馬の草鞋を入れる籠）持の日雇が並んで進む。そして、「衣御馬押^{おんまおし}」の樋口義左衛門が馬に乗って登場する。「押」とは行列の最後に位置するもので、ここで「衣御馬」の行列が終わったことを示す。松江藩士の出自や履歴をまとめた「列士録^③」によれば、樋口義左衛門は百三十石取の藩士で、御使番を務めていた。弘化四年五月、上京の供を仰せ付けられ、江戸へ出立した。六月には道中で衣御馬押を務めるよう命じられている。ただし、「江戸 御發駕京 御着、同御立之節斗」と書き添えられている。「行

列帳」の方にも「江戸 御發駕京 御出入斗」とあり、江戸出立と京都出入りの際のみ行列に加わっていたことが分かる。

その後は「御旗」の行列が続く、「御旗押」として、馬に乗った組外の小田切主尾が登場する。

次に「御鉄砲」、「御弓」、「御長柄」の行列が続く。「御鉄砲押」は三百石の者頭、有馬藤助。ただし、帰府の際外山金作に代わるとある。もう一人の「御鉄砲押」には百三十石の組外、斉藤茂左衛門が務め、これも帰府の際は望月長之助に交代するとある。「御弓押」は者頭の信太吉兵衛。百石取りの江戸詰め藩士であった。「御長柄押」は三百石の組外、棚橋勘八である。

長柄行列の後ろには「御鞍置御馬」が続く。五頭の鞍を置いた馬だが、鞍覆には葵の御紋が付いた虎皮や豹皮が用いられ、豪華な備えとなっている。押は百五〇石の組外、三谷半蔵だが、江戸發駕と京出入りのみとされる。そして、御用札を付けた二つの「御進献御長持」の行列となる。長持の前の「御進献物先乗」に者頭の赤木数馬、長持と長持の間の「御進献物中乗」に御使番の大野丹助、「御進献物跡押」には、御鉄砲押を務める望月長之助の父、御留守居役の望月兎毛が行列を組む。その後、「御持筒」の行列となる。御側役の小田佐一兵衛が江戸發駕と京都出入りのみ押を務める。次の「御持弓」の押は御目付の住江三左衛門。これら「御持筒」と「御持弓」は「持組」と呼ばれる藩主直属の鉄砲・弓隊である。

2 藩主の駕籠と格式を示す道具

第三巻は、軍隊でいうならば②の本陣にあたる藩主の行列である。押方一人に始まり、葵の御紋が入った「御纏長持」、「御纏竿」、「御馬験」、「御弓」、

「御弩兵」などの行列が続く。そして、合羽籠の後には、松平家の家格を示す道具類が登場する。

朱塗りに葵の金紋が施された「御先箱」が六つ並び、それぞれに「手替」と呼ばれる交代要員が付いている。先箱とは、藩主の正服を入れる箱で、乗物の前に配置するためこのように呼ばれる。なお、乗物の後に並ぶ挟箱は「跡(後)箱」と呼び、調度品や小道具などを入れる。先箱の後の合羽籠に続き、葵の紋が施された椅子「曲録」が出てくる。担ぐのは「百人者」という軽輩で、「御七里」とも呼ばれる。「御靑立」、「御具足笈」、「御太刀箱」、「御手箆筒」と続き、「白熊御長柄」が一本、「黒大鳥毛御鍔」が二本、「十文字虎皮投鞘御鍔」と「十文字蠟虎投鞘御鍔」が一本ずつ続く。そして、「御式笠」、「御立傘」のあとに羽織木綿と黒茶の袴を着た御徒が二十一人、「腰物筒」持ちが四人続いた後、「御長刀」、そのあとにいよいよ藩主の御駕籠が二十四人の供廻りを連れて登場する。駕籠を担ぐ「陸尺(六尺ともいう)」が交代要員も合わせて十六人、「棒頭」と呼ばれる世話役が一人つく。「行列帳」にも「御駕籠」と大きく記され、藩主の姿は見えないが、威厳を感じさせる。

駕籠の後には小道具を入れた長持と「御用心駕籠」と呼ばれる少し簡素な駕籠、草履持や床几持のあとに、傘と豹皮を付けた十文字の投鞘、「御早鍔」と「御素鍔」と呼ばれる対の鍔が続く。

藩主の駕籠の前と後に並ぶ道具類は、大名家の家格を示すものであった。江戸時代を通じて出版された大名名鑑「武鑑」と見比べてみるとよくわかる。上洛直前の弘化三年(一八四六)、須原屋茂兵衛発刊の「弘化武鑑」を見ると、「松平出羽守齊貴」の項には長刀と二本の鍔、そして傘が記されている。鍔には「中ゆい紫」「二本共黒らしや／柄せんだん巻」とあり、傘には「爪折」

と添え書きがされている。爪折つまおとは傘の骨の端を内側に折り曲げた長柄の傘のことで、日除けや雨除けに用いられた。これらの絵とまったく同様の道具類が「行列図」には描かれているのである。武鑑の道具記載の最後には「二本共御かごの跡に並」とあるが、これはおそらく対の鍔と爪折傘が藩主の駕籠の後ろに並ぶことを意味すると思われる。「行列図」でもそのとおりに配置されている。また、「黒長革掛之内金御紋御挟箱」と記され、金色の葵御紋を付けた「先箱」「跡箱」二種類の挟箱を指している。

このような道具の規定は、「要筐辦志年ようきやうばんしねんちゆうぎやうじ中行事」という資料の「諸家規則」にも記されている。例えば、藩主の乗る駕籠については、「打揚腰うちあげこし網代乗物あじろのりもの」を用いることが許可された大名十八家の中に、松平出羽守の名がある。打揚とは戸が簾のように下りるもので、引き戸に比べて格式が高いとされる。もう一つ格式を示すものがある。「行列図」では、跡箱、蓑箱の後に茶弁当と茶坊主、「御水桶」、「両懸挟箱」、「御菓子弁当」、「御汁弁当」、「御按火両懸」、「御薬筆筒」、「御手水皮籠」などといった藩主の食事、菓など身の回りの道具類が続く。その後ろに来るのが「御召馬」と呼ばれる藩主の馬である。「御召替馬」を含め全部で三頭、それぞれ鞍を乗せた馬であるが、中でも先頭の召馬には「虎皮御紋附とらかわごもんつき」の鞍覆が掛けられている。この虎皮の鞍覆も用いることのできる大名は限られており、前述の「要筐辦志年中行事」によれば、安永五年(一七七六)、松平出羽守を含めた二十八家にのみ許されている。一方、「長刀」の使用ができる大名家に松平出羽守の名前はない。武鑑を見ると、文政十二年(一八二九)のものには長刀が描かれていないが、天保六年(一八三五)のものには登場している。実は、天保五年(一八三四)、奇貴は幕府に対し金六万両という多額の献金を行った。松江藩の財政出納帳「出入捷覧しゅつにせつらん」によれば、天保五、六年の「江

戸臨時御入用」の欄に、「御上納金六萬兩并諸御入用且御長刀為御待(持力)被遊候様被蒙仰候御入用、金七万三千五百壹兩 此分御蔵拂」と貼紙があり、この時期に長刀の使用が許可されたことがわかる。

「御召馬」の後ろには、馬に必要な「杓籠持」「柄杓持」などが続き、「御駕籠日覆箱」「御駕籠日除筆筒」「御飛脚箱」「御遣挟箱」が並ぶ。そして、藩主の廻りで護衛をしていた供に仕える「若黨」や「草履取」「供挟箱」「供鍔」、馬を連れていない藩士たちへ貸し出すための「御貸馬」、最後に合羽籠で締めくくられている。

3 騎馬の藩士たちの行列

藩主の行列の後に続くのは、「行列図」の第四、五巻にあたる藩士たちの組む騎馬隊である。「御納戸」の石原佐助、小川隼太、「御扈從」の小倉為之丞、長尾庫次郎、岩崎潤平、大西半蔵、「御側役」の定方九郎右衛門、廣田右馬、和多田奥八、「御醫師」秋庭齡順、高橋貞元と続く。「御鍼醫」、「外科」、「御茶道頭」、「御右筆」については「行列帳」には役職名があるものの、「江戸京 御出入者御先江被遣之」とあり、「行列図」には描かれていない。次に「組外 御廣間方之内」の庄司小次郎、高木豊太郎、仙石多之助、山中作兵衛、井上善右衛門、中川半兵衛、その他、江戸への帰路で「御鉄砲押」を務める予定の望月長之助、外山金作も入り、最後に増田善蔵が続く。組外は、往來の時は三人であったようだが、江戸と京都出入りの際は九人も供に付いたようである。「御目付」は澤新五右衛門、「御用人」には朝比奈猪兵衛、大塚久太夫、「御番頭」には志立傳八、松原五郎太夫、「御近習頭」には間瀬源蔵、小田隼人、三谷忠太郎、そして最後尾を務めるのが「御家老」乙部九郎兵衛である。

行列の長さや供の多さはその藩士の格式を示し、近習頭以上は長刀、茶坊主なども供に加わっている。やはり家老乙部九郎兵衛の行列は一番長い⁽¹⁾が、乙部家文書によれば、九郎兵衛は自身の行列に「金紋の挟箱」を用いることが許されている。「行列図」にも、乙部家の家紋「三頭左巴」が金色で施された挟箱が描かれ、九郎兵衛の格の高さがうかがえる。もう一つ、「豹皮の鞍覆」も使用を許可されている。「行列図」では九郎兵衛が馬に乗っているため描かれておらず、確認することができないが、おそらくは用いられていたであろう。

おわりに

これまで見てきたとおり、「松平齊貴上京行列図」は、江戸赤坂上屋敷を出立した際の行列の様子をほぼ正確に描いたものと言える。供の人数に多少の差異は見られるものの、定められた装束や道具類の順番、配置など「御上京行列帳」に沿った形で描かれる。この「行列図」は江戸出立を描いたものであるため、上京行列の間でも最も長大となる部分の一つであったと考えられる。往来の道中では供の人数も減り、京都到着後、御所参内の際は装束や行列の様子も大きく変化したことであろう。

「軍隊の行軍」という大名行列の基本に則し、松平家の家格を正しく示した「松平齊貴上京行列図」は、江戸時代の御用絵師が描いた絵画的資料というだけでなく、松江藩における一大プロジェクトを伝える重要な歴史資料なのである。

注

- (1) 野津静一郎 編 昭和十六年(一九四一)発行 名著出版
- (2) 鹵は楯の意、簿は行列の順序を記した帳面の意で、古代中国の天子の行列をさす。転じて、明治以後の日本では、装飾的な武器・武具を備えた行幸・行啓の意味で使われた。
- (3) 「島根県文化人名鑑」伊藤菊之輔 編 昭和三十八(一九六三)年発行
- (4) 人間文化研究機構 国文学研究資料館蔵 島根県立図書館にマイクロフィルムあり。
- (5) 松江市蔵
- (6) 個人蔵
- (7) 本文にはこの表題は書かれていないが、「御上京一途惣目録」の中に「御上京御往来御行列」とある。
- (8) 根岸茂夫「大名行列を解剖する 江戸の人材派遣」吉川弘文館
- (9) 島根県立図書館蔵
- (10) 国立国会図書館蔵
- (11) 早稲田大学付属図書館蔵
- (12) 人間文化研究機構 国文学研究資料館蔵
- (13) 松江歴史館 寄託 「乙部家等古文書史料調査目録」8・2・28 (まつばら・さちこ 松江歴史館学芸員)

表1 「御上京御往来御行列」と「松平齊貴上京行列図」の比較

…「御上京御往来御行列」と「松平齊貴上京行列図」で人数が異なる部分

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往来御行列」(国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵) 第1巻				参考: 「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)		
役職	人数	馬数	装束	備考	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数
注進 御徒	3		羽織木綿黒茶 股引黒 以下共同前		3			徒士	3	
足輕	8		羽織単木綿薄浅黄一ツ巴 股引黒		8			御目附方役人	8	
合羽籠一荷持人 日履	1		肴板木綿黒 副絆黒		1			合羽籠	1	
肝煎 押方	1		羽織木綿黒竹口々丸 股引黒 以下共同前		1			御厩方世話役	1	
爪髷役	1		羽織木綿茶小紋袴 股引黒 以下小頭御柄杓之者共同前		1			御厩方世話役	1	
御中間	2		肴板木綿単紺一ツ巴 副絆黒 以下共同前		2			口付	2	
衣御馬		1	御馬衣袴花色綿裏御敬三 以下共同前			1		馬		1
御柄杓持	1				1			馬柄杓	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			香籠	1	
御中間	2				2			口付	2	
衣御馬		2				2		口付	2	
御中間	2				2			口付	2	
衣御馬		2				2		口付	2	
御柄杓持	1				1			馬	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			馬柄杓	1	
御中間	2				2			口付	2	
衣御馬		2				2		口付	2	
御柄杓持	1				1			馬	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			香籠	1	
足輕	1		羽織木綿単花色一ツ巴 股引黒 以下共同前		0				0	
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	
衣御馬押 騎馬 樋口兼左衛門	1			但江戸 御發駕 京 御出入斗	1			樋口兼馬	1	
肝煎 押方	1				1			徒士	1	
御旗之者 小頭	1		羽織木綿単兼房小紋 股引黒 以下共同前		1			徒士	1	
御旗箱一荷 持人日履二人 手替日履二人	4				4			持人 2人 手カハリ 2人	4	
御旗竿 1本御旗之者	3		羽織木綿単茶小紋一ツ巴 股引黒 以下共同前		3			旗竿筒	3	
御旗之者 (手替カ)	6				6			手カハリ	6	

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往來御行列」(国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)				参考:「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)			
役職	人数	馬数	装束	備考	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	
合羽籠一荷持人 日履	1				1			合羽籠	1		
御旗押 騎馬 小田切主尾	1				1			小田切乗馬	1		
肝煎 押方	1				1			徒士	1		
小頭	1		紫宸御旗組小頭と同前		1			徒士	1		
御鉄砲足軽	10		羽織木綿単花色一ツ巴 股引黒以下共同前	玉目三角五分 袋履々緋無地 以下共同様	10			鉄砲	10	1	
手替 足軽	3				3			手力ハリ	3		
玉薬箱一荷持人 日履	1				1			手道具両懸	1		
火繩箱一荷持人 日履	1				1			手道具両懸	1		
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	1	
御鉄砲押 騎馬 有馬藤助	1			御屏府之節 外山金作	1			有馬乗馬	1	1	
小頭	1				1			徒士	1	1	
御鉄砲足軽	10				10			鉄砲	10		
手替 足軽	3				3			手力ハリ	3		
玉薬箱一荷持人 日履	1				1			手道具両懸	1		
火繩箱一荷持人 日履	1				1			手道具両懸	1		
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	1	
御鉄砲押 騎馬 斎藤茂左衛門	1			御屏府之節 望月長之助	1			斎藤乗馬	1	1	
肝煎 押方	1				1			徒士	1	1	
小頭	1				1			徒士	1	1	
御弓足軽	10		羽織木綿単花色一ツ巴 股引黒以下共同前		10			弓	10		
手替 足軽	3				3			手力ハリ	3		
矢筈箭一荷持人 日履	1				1			口箱	1		
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	2	
御弓押 騎馬 信太吉兵衛	1				1			信太乗馬	1	1	
(第1巻 計)				109	5			第1巻 計		109	5
第2巻											
肝煎 押方	1				1			徒士	1		
御小八方 杖突	1		羽織木綿単柿色兼房小紋 股引黒以下小頭共同前		1			徒士	1		
御長柄小八	20		羽織木綿単花色一ツ巴 股引黒以下共同前	黒鳥毛鞆以下同様	20			数鍵	20		
手替 小八	10				10			手力ハリ	10		
足軽	1				1			徒士	1		
合羽籠一荷持人 日履	3				3			合羽籠	3		
御長柄押 騎馬 棚橋勘八	1				1			棚橋乗馬	1		
肝煎 押方	1				1			徒士	1		
中間 小頭	1				1			徒士	1		
御中間	2				2			口付	2		
御鞍置御馬	1			御鞍置虎皮御紋付	1			副馬	1		

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造 (松原)

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往來御行列」(国文学研究資料館蔵)					「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)			参考: 「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)		
役職	人数	馬数	装束	備考	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数
御柄杓持	1				1			馬柄杓	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			香籠	1	
御中間	2				2			口付	2	
御鞍置御馬		1		御鞍置豹皮御紋付		1		副馬		1
御中間	2				2			口付	2	
御鞍置御馬		1		御鞍置虎皮無地		1		副馬		1
御柄杓持 1人	1				1			馬柄杓	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			香籠	1	
御中間	2				2			口付	2	
御鞍置御馬		1		御鞍置豹皮無地		1		副馬		1
御中間	2				2			口付	2	
御鞍置御馬		1		御鞍置口虎		1		副馬		1
御柄杓持	1				1			馬柄杓	1	
香籠一荷持人 日履	1				1			香籠	1	
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	
御鞍置御馬押 騎馬 三谷半藏	1			但江戸御發駕京 御出入斗	1			三谷乘馬	1	
肝煎 押方	1			御滞府之節女房奉書比所 江戸丸 行列朱書之通(以下略す)	1			徒士	1	
御進献物先乗 御者頭一騎 赤木 教馬	1				1			鈴(赤) 木乘馬	1	
足整	3				3			徒士	3	
御徒目付	2				2			世話役	2	
御用札建之 御進献御長持持人 日履	8				8			人足	8	
居墓持人 日履	2				2			人足	2	
御進献物中乗 御使番一騎 大野丹助	1				1			大野乘馬	1	
足整	3				3			徒士	3	
御徒目付	2				2			世話役	2	
御用札建之 御進献御長持持人 日履	4				8			人足	10	
居墓持人 日履	2				2					
雨覆箱一荷持人 日履	2				1			両懸	1	
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2	
御進献物跡押 御留守居一騎 望月禿毛	1				1			望月乘馬	1	
肝煎 押方	1				1			徒士	1	
小頭	1				1			徒士	1	
御持筒 足輕	5			羽織木綿単黒一ツ巴 股引黒以下共同前	5			鉄砲	5	
手替 足輕	2				2			手力ハリ	2	
玉薬箱一荷持人 日履	1			玉目三丸五分 袋裏々緋葉御紋白羅紗二而 御側二五ツ充附以下共同様	1			道具両懸	1	
火纏箱一荷持人 日履	1				1			道具両懸	1	

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往来御行列」(国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)				参考: 「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
合羽籠一荷持人 日履	1	1		合羽籠	1	1		合羽籠	1	1	
御持筒押 騎馬 小田佐一兵衛	1	1	但江戸 御發駕京都 御出入斗	小田兼馬	1	1		小田兼馬	1	1	
小頭	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御持弓 足輕	5	5		弓	5	5		弓	5	5	
手替 足輕	2	2		手力ハリ	2	2		手力ハリ	2	2	
御矢筈一荷持人 日履	1	1		箭箱	1	1		箭箱	1	1	
合羽籠一荷持人 日履	1	2		合羽籠	2	1		合羽籠	1	1	
御持弓押 騎馬 住江三左衛門	1	1	御帰路之節ハ大津迄夫ハ 御勤供仕	住江兼馬	1	1		住江兼馬	1	1	
(第2巻計) 116 5				第3巻				(第2巻計) 119 5			
肝煎 押方	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御懸長持一持持人 日履	4	4		人足	4	4		人足	4	4	
御懸空一本 足輕	1	1	装束御持筒と同様	旗竿	1	1		旗竿	1	1	
手替 足輕	1	1		手力ハリ	1	1		手力ハリ	1	1	
御馬験辛一本 足輕	1	1		旗竿	1	1		旗竿	1	1	
手替 足輕	1	1		手力ハリ	1	1		手力ハリ	1	1	
式張立 御弓 百人者	2	2	看板木綿単袖一ツ巴股引黒	手力ハリ	2	2		手力ハリ	2	2	
手替 百人者	2	2		空種	2	2		空種	2	2	
御警兵 百人者	2	2	装束二張立御弓持と同様	手力ハリ	2	2		手力ハリ	2	2	
手替 百人者	2	2		合羽籠	2	2		合羽籠	2	2	
合羽籠一荷持人 日履	2	2		徒士	2	2		徒士	2	2	
肝煎 押方	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御案内御徒	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御先箱持人 日履	6	6		挟箱	6	6		挟箱	6	6	
手替 日履	6	6		手力ハリ	6	6		手力ハリ	6	6	
御小入方 杖突	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
合羽籠一荷持人 日履	1	1		合羽籠	1	1		合羽籠	1	1	
御曲線百人者	1	1	羽織木綿花色一ツ巴 股引黒	曲線	1	1		曲線	1	1	
手替 百人者	2	2		手力ハリ	2	2		手力ハリ	2	2	
御曾立 足輕	1	1		臺笠	1	1		臺笠	1	1	
手替 足輕	1	1		手力ハリ	1	1		手力ハリ	1	1	
御具足袋持人 日履	3	3		具足櫃	3	3		具足櫃	3	3	
手替 日履	3	3		手力ハリ	3	3		手力ハリ	3	3	
手替 足輕	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御太刀箱一持人 日履	1	3		人足	3	3		人足	3	3	
宰領 押方1人 日履	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	
御太刀箱一持人 日履	1	3		人足	3	3		人足	3	3	
宰領 押方1人	1	1		徒士	1	1		徒士	1	1	

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造(松原)

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往來御行列」(国文学研究資料館蔵)					「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)			参考：「松平齊貴上京繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)		
役職	人数	馬数	装束	備考	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数
御手篋箭一棹持人 日履	4				4			人足	4	4
御手篋箭一棹持人 日履	4				4			人足	4	4
肝煎 御手篋箭才料兼 押方	1				2			徒士	2	2
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	1	1
●										
△										
			蹴上之水方御案内 △京都御留守居馬上 熨斗目上下着							
●										
白熊御長柄持人 御手廻	1		羽織木綿黒無印 股引黒以下共同前		1			伊達槍	1	1
手替 御手廻	2				2			手カハリ	2	2
黒大島毛一本持人 御手廻	2				2			伊達槍	2	2
手替 御手廻	2				2			手カハリ	2	2
十文字 虎皮投鞘御鍵一本持人 御手廻	1				1			伊達槍	1	1
十文字 口虎投鞘御鍵一本持人 御手廻	1				1			伊達槍	1	1
手替 御手廻	2				2			手カハリ	2	2
御立傘持人 御手廻	1				1			長柄	1	1
手替 御手廻	2				2			臺笠	1	1
御徒	21		羽織木綿黒茶袖自分紋 股引黒		21			手カハリ	2	2
御腰物箱 御徒	4				4			徒	21	21
御長刀持人	1				1			刀筒	4	4
手替	1				1			長刀	1	1
御徒目付	4				4			手カハリ	1	1
御簾附	4				4			徒士	4	4
御駕籠								徒士	4	4
御供廻り								籠 雲州公座乗 籠御踏士	24	24
陸尺	16		看板木綿淺黄一ツ巴脚半黒 羽織木綿鼠色兼房小紋自分紋 股引黒		16			六尺・手カハリ六尺	16	16
棒頭	2				2			世話役	2	2
御小道長長持一棹持人 陸尺	8				8			長持・手カハリ	8	8
小指	1				1			徒士	1	1
才料 押方	1				1			徒士	1	1
御用心駕籠持人	3				3			山籠 六尺・手カハリ	3	3
御草履上	1				1			草履取	1	1
御床几持 定小使	1		羽織木綿花色一ツ巴脚半黒		1			床机	1	1
御杖持之御草履持	1				1			徒士	1	1
御手鍵持人 御手廻	1		豹皮投鞘十文字		1			持槍	1	1
御手廻小頭	1				1			徒士	1	1
御傘持人 御手廻	1		羽織木綿兼房小紋自分紋股引黒		1			長柄	1	1

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往来御行列」(国文学研究資料館蔵)						「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)			参考:「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)			
役	職	人数	馬数	装束他	備考	人数	馬数	備考	役	職	人数	馬数
手替	御手廻	2				2			手カハリ		2	
御早縫持人	御手廻	1				1			持槍		1	
御素縫持人	御手廻	1			柄袋御地持御縫 右回断	1			持槍		1	
手替	御手廻	2				2			手カハリ		2	
御跳箱持人	日履	2				2			挨拶		2	
手替	日履	2				2			挨拶		2	
御襖箱持人	日履	1				1			挨拶		1	
御跳箱持人	日履	1				1			挨拶		1	
御襖箱持人	日履	1				1			挨拶		1	
手替	日履	3				3			挨拶		3	
坊主		1				1			手カハリ		1	
茶弁當持人	日履	1			江戸 御發駕京都 御出入 八御府内御持之分 御道中八平常御道中之分	1			茶弁當		1	
坊主		1				1			茶坊主		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
御水桶持人	日履	1				1			水桶		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
而懸挨拶三荷持人	日履	3				3			而懸		3	
才料	足輕	1				1			世話役		1	
手替	日履	3				3			手カハリ		3	
御菓子弁當持人	日履	1				1			小道具而懸		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
御汗弁當持人	日履	1				1			小道具而懸		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
御控火而懸持人	日履	1				1			小道具而懸		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
御葉簞笥一荷持人	日履	1				1			手カハリ		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
御水火皮籠持人	日履	1				1			手カハリ		1	
手替	日履	1				1			手カハリ		1	
季領	足輕	1				1			徒士		1	
御中間	小頭	1				1			徒士		1	
御口番		4				4			口付		4	
御召馬			1	御鞍覆鹿皮御紋附			1		副馬			1
御柄杓一本持人	御中間	1				1			馬柄杓		1	
御馬綱乱一荷持人	御中間	1				1			馬草籠		1	
香籠一荷持人	御中間	1				1			香籠		1	
手替	御中間	3				3			徒士		3	
御中間		2				2			口付		2	
御召馬			1	御鞍覆豹皮御紋附			1		副馬			1
御柄杓持		1				1			馬柄杓		1	

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造(松原)

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往來御行列」(国文学研究資料館蔵)					「松平齊皇上京行列図」 (東京国立博物館蔵)					参考: 「松平齊皇上洛繪巻行列明細書」 (東京大学史料編纂所蔵)				
役職	人数	馬数	装束	備考	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数				
沓籠一荷持人 日履	1				1			馬草籠	1					
御中間	2		1 御鞍覆天鷹絨御鞍附		2	1		口付	2					
御召替馬								副馬		1				
御柄杓持	1				1			馬柄杓	1					
沓籠一荷持人 日履	1				1			馬草籠	1					
合羽籠一荷持人 日履	2				2			合羽籠	2					
御駕籠日履箱持人 日履	2				2			長持	2					
手籠 日履	2				1			手カハリ	1					
御駕籠日除簀笥一持人 日履	2				2			長持	2					
御小入方 杖突	1				1			徒士	1					
御小入方 小屋頭	1				1			徒士	1					
御飛脚箱一荷								扱箱		1				
御飛脚之者	1				1			季頰		2				
定小使					2			徒士		9				
宇明小入														
小買物方足整	1				9									
小買物方附 小人	1													
御唐筵箱持人 日履	2				2			具足長持 人足	4					
手籠 日履	2				2			面懸	2					
御遣扱箱一荷持人 日履	2				2			徒士	2					
御遣納戸 御徒	1				2			長持 人足	4					
御遣長持一掉持人 日履	4				4			徒士	1					
季頰 足輕	1				1			徒士	1					
押方	2				2			諸士	2					
俵若葉俵 (三列)					28			諸士	28					
俵草履取 (三列)					28			諸士	28					
俵狭箱 (三列)					28			諸士	28					
俵纏 (三列)					28			諸士持槍	28					
肝煎 押方	1				1			徒士	1					
中間	2				2			口付	2					
御貸馬			1 御鞍覆黒羅紗縁金以下同様			1		副馬		1				
御柄杓持	1				1			馬柄杓	1					
沓籠一荷持人 日履	1				1			馬草籠	1					
中間	2				2			口付	2					
御貸馬	2				2			口付	2					
中間	2				1			副馬	1					
御貸馬	1				2			口付	2					
御柄杓持	1				1			副馬	1					
沓籠一荷持人 日履	1				1			馬柄杓	1					
合羽籠一荷持人 日履	1				1			馬草籠	1					
惣合羽籠	3				28			合羽籠	28					
押方	3				3			徒士	3					
(第3巻計)	250	6			428	6			427	6				

「御上京御行列帳」のうち「御上京御往來御行列」(国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」 (東京国立博物館蔵)			
役職	人数	馬数	備考	第4巻・第5巻			
				人数	馬数	備考	
御納戸	2		江戸京 御出入之節者 格式有之者御供	2		石原佐助 小川隼太	
御扨従	4		同	4		小倉為之丞 長尾厚次郎 岩崎測平 大西半蔵	
御側役	2		江戸京 御出入者 三人御供	3		定方九郎右衛門 廣田右馬 和多田興八	
御醫師	1		江戸京 御出入者 兩人御供	2		秋庭諭順 高橋貞元	
御鍼醫	1		江戸京 御出入者 御先江被遣之	0		(なし)	
外科	1		同上	0		(なし)	
御茶道頭	1		同上	0		(なし)	
御石奉	1		同上	0		(なし)	
組外 御禮問方之内	3		江戸京 御出入者 九人御供	1		庄司小次郎	
				1		高木豊太郎	
				1		仙石多之助	
				1		山中作兵衛	
				1		井上善右衛門	
				1		中川半兵衛	
				1		望月長之助	
				1		外山金作	
				1		増田善蔵	
御目付	1			1		澤新五右衛門	
御用人	1		江戸京 御出入者 二人御供	2		朝比奈猪兵衛 大塚久太夫	
御番頭	1		同上	2		志立傳八 松原五郎太夫	
御近留頭	3		神奈川5大津迄ハ 御供二人	3		間瀬源蔵 小田隼人 三谷忠太郎	
御家老	1			1		乙部九郎兵衛	
(第4・5巻 行列数計)				23		29	

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造 (松原)

「御上京御行列帳」うち「御上京之節余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「御上京御行列帳」のうち「御上京之節余勢行列帳」 (東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平貴上京御行列帳」を参照 (東京大学史料館蔵)を参照			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	
中馬	2	1		口付	2	1	
衣馬	2	1		副馬			
中馬				口付	2	2	
衣馬				副馬			
衣箱	1	1		馬車籠		1	
鉄砲				鐵砲	1	1	
玉葉箱	5			鐵砲	5	5	
小馬鞍半				兩總	1	1	
甲立				旗竿	1	1	
具足				台笠	1	1	
墨弓	2			具足籠	2	2	
笠籠				節弓	2	2	
先箱	2			空箱	1	1	
印籠				挨拶・手カハリ	4	4	
對籠	2			伊達籠・手カハリ	3	3	
伏坐				伊達籠・手カハリ	4	4	
立坐				長柄・手カハリ	2	2	
徒	13			台笠・手カハリ	2	2	
刀筋	2			徒士	13	13	
長刀				刀筋	2	2	
中小姓	8			長刀	1	1	
笠籠				乙部乗馬	1	1	
持籠				口付	2	2	
茶				若葉	8	8	
杖籠				持籠	2	2	
裏籠	2			長柄	1	1	
裏箱				床机	1	1	
茶弁当 坊主1人				草履取	1	1	
中間	2			挨拶	1	1	
乘馬				馬車籠	1	1	
柄杓持				馬車籠	1	1	
當籠				茶弁当	1	1	
				茶坊主	1	1	
				籠	1	1	
				六尺	8	8	
				世話役	1	1	
西懸挨拶				兩總	2	2	
合羽籠	2			合羽籠	11	11	
竹馬				兩具(竹馬)	6	6	
若葉							
丸棹笠籠							
若葉							
鐵							
草履取							
押	2			世話役	2	2	
				合計	100	100	

「御上京御行列帳」うち「御上京之節余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「御上京御行列帳」のうち「御上京之節余勢行列帳」 (東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平貴上京御行列帳」を参照 (東京大学史料館蔵)を参照			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	
中馬	2	1		口付	2	1	
衣馬				副馬			
中馬	2	1		口付	2	2	
衣馬				副馬			
衣箱	1	1		馬車籠		1	
鉄砲				鐵砲	1	1	
小馬鞍半	3			鐵砲	3	3	
具足				長柄	1	1	
墨弓				具足籠	2	2	
光箱	2			節弓	1	1	
印籠				挨拶・手カハリ	4	4	
對籠	2			伊達籠・手カハリ	5	5	
徒	9			伊達籠	2	2	
刀筋	2			徒士	9	9	
長刀				刀筋	2	2	
中小姓	8			長刀	1	1	
派籠				三谷乗馬	1	1	
持籠				口付	2	2	
衣箱				若葉	8	8	
杖籠				持籠	2	2	
草履取	2			長柄	1	1	
裏籠				床机	1	1	
茶弁当 坊主1人				草履取	1	1	
中間	2			挨拶	1	1	
乘馬				馬車籠	1	1	
柄杓持				馬車籠	1	1	
當籠				茶弁当	1	1	
				茶坊主	1	1	
				徒士	1	1	
				籠	1	1	
				六尺	8	8	
西懸挨拶				兩總	1	1	
合羽籠				合羽籠	10	10	
竹馬				兩具(竹馬)	5	5	
若葉							
丸棹笠籠							
若葉							
鐵							
草履取							
押				世話役	2	2	
				合計	85	85	
							0

…「御上京之節余勢行列帳」と「松平貴上京御行列帳」で配置が異なる部分。
 ※「御上京之節余勢行列帳」で人数が明確でないものは人数欄に数を入れないものとする

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				松平齊貴上京行列図 (東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(京大文学部史料館蔵)を参照			
御近習頭				小田車人			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
中問	2			口付	2		口付
衣馬		1		副馬		1	副馬
草履				馬草履	1		馬草履
鍬砲	2			鍬砲	2		鍬砲
奥足				奥足櫃	2		奥足櫃
墨弓				鎗弓	1		鎗弓
先箱	2			拵箱・手カハハ	4		拵箱・手カハハ
印籠	2			伊達鎗・手カハハ	3		伊達鎗・手カハハ
對籠				伊達鎗・手カハハ	4		伊達鎗・手カハハ
徒	5			徒士	7		徒士
刀筒徒	2			刀筒	2		刀筒
長刀				長刀	1		長刀
中小姓	6			小田車馬	1		間瀬薬馬
密籠				口付	2		口付
鍬				若衆	6		若衆
傘				持籠	1		持籠
草履取	2			長柄	1		長柄
中問				草履取	1		草履取
香馬	2			床几	1		床几
柄杓持				換箱	1		換箱
香籠				馬柄杓	1		馬柄杓
				馬草籠	1		馬草籠
				籠			籠
				六尺	8		六尺
両懸投箱				両懸	1		両懸
合羽籠				合羽籠	6		合羽籠
竹馬				雨具(竹馬)	4		雨具(竹馬)
押				世話役	2		世話役
				合計	66		合計
					2		合計
							63
							2

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				松平齊貴上京行列図 (東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(京大文学部史料館蔵)を参照			
御番頭				松原五郎次夫			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足櫃	2		
墨弓				鎗弓	1		
聖籠				拵箱・手カハハ	4		
徒	2			伊達鎗・手カハハ	4		
刀筒	3			徒士	5		
刀筒	2			刀筒	2		
中小姓				松原薬馬	2		
密籠	5			口付	1		
草履取	1			若衆	2		
拵箱	2			床几	5		
持籠	1			長柄	1		
役人衆	1			拵籠	1		
中問	2			馬草籠	1		
衣馬	1			箱	1		
香籠	1			江戸系出入者数置二可仕事	6		
両懸投箱				六尺	1		
合羽籠				両懸	6		
竹馬				合羽籠	1		
押				雨具	5		
				世話役	2		
				合計	45		
					1		

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造 (松原)

「御上京御行列帳」うち「御上京之御行列帳」 (国文学研究資料館蔵)					「松平青貞上京行列圖」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平青貞上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照						
御番頭格			御番頭格 志立御人			御番頭格御側役 和多田與八			御番頭格御留守居 望月亮毛		
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
役職				役職				役職			
馬足				馬足	2			馬足	2		
鋳弓				鋳弓	1			鋳弓	1		
野廻	2			伊達繪・手カハリ	4			伊達繪・手カハリ	4		
徒	3			徒士	3			徒士	3		
刀筒	2			刀筒	2			刀筒	2		
中小姓	4			志立兼馬	2			望月兼馬	1		
控箱				口付	1			口付	2		
持箱				若黨	2			若黨	4		
鋳紐懸 箱				換箱	4			換箱	4		
袋入 傘				長柄	1			換箱	1		
草履取				持箱	1			持箱	1		
中間	2			床机及草履取	1			持箱	1		
衣箱				馬草箱	1			村持	1		
香箱				籠	1			床机	1		
				籠	1			長草箱	1		
				六尺	4			籠	1		
								六尺	4		
西懸換箱				面懸	1			面懸	1		
合羽籠				合羽籠	3			合羽籠	3		
竹馬				雨具(竹馬)	2			雨具	2		
				合計	34			合計	35		
					1			合計	1		

「御上京御行列帳」うち「御上京之御行列帳」 (国文学研究資料館蔵)					「松平青貞上京行列圖」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平青貞上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照						
御甲入			御甲入 志立御側役			御甲入 志立御側役 廣田右馬			御甲入 志立御側役		
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
役職				役職				役職			
馬足				馬足	1			馬足	1		
鋳弓				鋳弓	1			鋳弓	1		
野廻	2			伊達繪・手カハリ	4			伊達繪・手カハリ	4		
刀筒	2			徒士	3			徒士	3		
中小姓	3			志立兼馬	1			兼馬	1		
控箱				口付	2			口付	2		
持箱				若黨	3			若黨	3		
鋳紐懸 箱				換箱	2			換箱	1		
袋入 傘				持箱	1			換箱	1		
草履取				換箱	1			換箱	1		
中間	2			長柄	1			換箱	1		
衣箱				草履取	1			草履取	1		
香箱				馬草箱	1			馬草箱	1		
				籠	1			籠	1		
				六尺	4			六尺	4		
西懸換箱				面懸	1			面懸	1		
合羽籠				合羽籠	2			合羽籠	3		
竹馬				雨具(竹馬)	2			雨具	1		
				合計	31			合計	30		
					1			合計	1		

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(京大文学部蔵)を参照			
御上京御行列帳 御上京前 御上京中 御上京後				御上京御行列帳 御上京中 御上京後			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足	1		信太右兵衛兼足
墨弓				墨弓	1		御弓
印籠				伊達繪・手カハ	2		伊達繪・手カハ
徒	3			徒士	3		徒士
若黨				養馬	1		養馬
笠籠				口付	2		口付
袋入傘				若黨	3		若黨
草履取				長柄	1		長柄
				持槍	1		持槍
				草履取	1		草履取
				香籠	1		香籠
				籠	1		籠
				六尺	4		六尺
両懸扶箱				両懸	1		両懸
合羽籠				合羽籠	2		合羽籠
竹馬				雨具(竹馬)	1		雨具(竹馬)
				牽領	1		牽領
				合計	28	0	合計
							合計
							25
							0

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余勢行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(京大文学部蔵)を参照			
御上京御行列帳 御上京前 御上京中 御上京後				御上京御行列帳 御上京中 御上京後			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足	1		奥足
墨弓				墨弓	1		墨弓
印籠				伊達繪・手カハ	2		伊達繪・手カハ
徒	3			徒士	3		徒士
若黨				口付	2		口付
笠籠				若黨	2		若黨
袋入傘				長柄	1		長柄
草履取				持槍	1		持槍
				草履取	1		草履取
				香籠	1		香籠
				籠	1		籠
				六尺	4		六尺
両懸扶箱				両懸	1		両懸
合羽籠				合羽籠	2		合羽籠
竹馬				雨具(竹馬)	1		雨具(竹馬)
				牽領	1		牽領
				合計	25	0	合計
							合計
							23
							0

「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造(松原)

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余参行列帳」
(国文学研究資料館蔵)

※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照
「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵)
※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照
(東京大学史料編纂所蔵)

御制役				御制役 定方九郎右衛門				御制役 小田佐一兵衛				御制役 三谷半蔵				御制役 組外 斎藤茂左衛門			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
星足	1			差具足	1			差具足	1			差具足	1			差具足	1		
面鏡扶箱				伊達繪・手カノハ	2			伊達繪・手カノハ	2			伊達繪・手カノハ	2			伊達繪・手カノハ	2		
印籠				徒士	3			徒士	3			徒士	3			高橋兼馬	1		
挂	3			兼馬	1			兼馬	1			兼馬	1			口付	2		
若衆	2			口付	2			口付	2			口付	2			若衆	3		
差籠				若衆	2			若衆	2			若衆	2			長柄	1		
袋入傘				長柄	1			長柄	1			持槍	1			持槍	1		
草履取				持槍	1			持槍	1			草履取	1			草履取	1		
				草履取	1			草履取	1			草履取	1			香籠	1		
				馬草籠	1			馬草籠	1			香籠	1			籠	4		
				籠	4			籠	4			籠	4			籠	4		
				六尺	4			六尺	4			六尺	4			六尺	4		
				面鏡	1			面鏡	1			面鏡	1			面鏡	1		
合羽籠				合羽籠	2			合羽籠	1			合羽籠	1			合羽籠	1		
竹馬				雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	2			雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	1		
				合計	24	0		合計	24	0		合計	23	0		合計	24	0	

「御上京御行列帳」うち「御上京之前余参行列帳」
(国文学研究資料館蔵)

※役職名は「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵)
※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」
(東京大学史料編纂所蔵)を参照
(東京大学史料編纂所蔵)

御制役				御制役 増田善蔵			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
差具足	1			差具足	1		
面鏡扶箱				飾弓	1		
星弓				増田兼馬	1		
若衆	3			口付	2		
長柄				若衆	2		
鍔				長柄	3		
袋入傘				持槍	1		
草履取				草履取	1		
				馬草籠	1		
				籠	4		
				六尺	4		
				面鏡	1		
合羽籠				合羽籠	1		
竹馬				雨具(竹馬)	1		
				合計	19	1	

「御上京御行列帳」うち「御上京之節余執行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照				「御上京御行列帳」うち「御上京之節余執行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照			
御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足	1			奥足	1			奥足	1		
面懸扶箱				面懸	1			面懸	1			面懸	1		
若黨	2			若黨	1			若黨	1			若黨	1		
丸棒				口付	1			口付	1			口付	1		
袋入傘				若黨	2			若黨	2			若黨	2		
草履取				長柄	2			長柄	2			長柄	2		
				持箱	1			持箱	1			持箱	1		
				草履取	1			草履取	1			草履取	1		
				馬草籠	1			馬草籠	1			馬草籠	1		
				籠	1			籠	1			籠	1		
				六尺	4			六尺	4			六尺	4		
合羽籠				合羽籠	1			合羽籠	1			合羽籠	1		
竹馬				雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	1		
				合計	17			合計	13			合計	18		

「御上京御行列帳」うち「御上京之節余執行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照				「御上京御行列帳」うち「御上京之節余執行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照			
御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足	1			奥足	1			奥足	1		
面懸扶箱				面懸	1			面懸	1			面懸	1		
若黨	1			若黨	1			若黨	1			若黨	1		
丸棒				口付	1			口付	1			口付	1		
袋入傘				若黨	2			若黨	2			若黨	2		
草履取				長柄	2			長柄	2			長柄	2		
				持箱	1			持箱	1			持箱	1		
				草履取	1			草履取	1			草履取	1		
				馬草籠	1			馬草籠	1			馬草籠	1		
				籠	1			籠	1			籠	1		
				六尺	4			六尺	4			六尺	4		
合羽籠				合羽籠	1			合羽籠	1			合羽籠	1		
竹馬				雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	1			雨具(竹馬)	1		
				合計	17			合計	17			合計	11		

「御上京御行列帳」うち「御上京之節余執行列帳」 (国文学研究資料館蔵)				「松平齊貴上京行列図」(東京国立博物館蔵) ※役職名は「松平齊貴上洛繪巻行列明細書」(東京大学史料編纂所蔵)を参照			
御上京御行列帳 格式書之題名 人数				御上京御行列帳 格式書之題名 人数			
役職	人数	馬数	備考	役職	人数	馬数	備考
奥足				奥足	1		
面懸扶箱				面懸	1		
若黨	2			若黨	2		
丸棒				口付	1		
袋入傘				若黨	4		
草履取				六尺	2		
				持箱	1		
				草履取	1		
				馬草籠	1		
				籠	1		
				六尺	1		
合羽籠				合羽籠	1		
竹馬				雨具(竹馬)	1		
				合計	15		
					0		

松江歴史館 研究紀要

第2号

渡部彥の復権と周辺の間人模様	関 和彦	1
「松平齊貴上京行列図」に見る大名行列の構造	松原 祥子	15
幕末の松江渡海場 ——「御用留 船目代六右衛門」をよむ——	多久田友秀	36
松江城下町遺跡出土の桔梗紋の瓦を使用した家について	新庄 正典	56
島根県初の私立和洋画学校「方圓学舎」入門者一覧	西島 太郎	61
松江藩領全域をおおう「輪切絵図」 ——安定的な年貢確保を目的に——	上杉 和央	78(11)
	大矢 幸雄	
	石倉 舞美	
松江藩で利用された花崗岩類	朽津 信明	88(1)
	西尾 克己	
	稲田 信	

平成24年3月

 松江歴史館

MATSUE HISTORY MUSEUM BULLETIN

No.2 MARCH, 2012

CONTENTS

Watanabe Tsune:An examination of his resurgence and influence on his peers. -----SEKI Kazuhiko----	1
Structure of feudal lord's procession seen in the "Figure of procession of Matsudaira Naritake visit to Kyoto" -----MATSUBARA Sachiko----	15
A basic study of the privileged group of sailors in Matsue in the end of Edo Period -----TAKUDA Tomohide----	36
The house which uses roof-tiles dug up from the remains of Matsue castle town. The roof-tiles have Japanese bellflower ornaments.-----SHINSYO Masanori----	56
A private art school was established for the first time in Shimane Prefecture "HOENGAKUSYA" list of students enrolled -----NISHIJIMA Taro----	61
"Wakiriezu" : Atlases Showing Land Tax Collectiion in the Matsue Domain -----UESUGI Kazuhiro----	78(11)
	OYA Yukio ISHIKURA Maimi
Granitic rocks used in Matsue-han , Shimane Prefecture in -----KUCHITSU Nobuaki----	88(1)
early-modern age	NISHIO Katsumi INATA Makoto

Published by
Matsue History Museum
Matsue, Japan

平成二十四年(二〇二二)三月三十一日印刷
平成二十四年(二〇二二)三月三十一日発行

松江歴史館研究紀要 第二号

編集発行 松江歴史館

住所 島根県松江市殿町二七九番地

〒六九〇一〇八八七

電話 〇八五二一五五一

FAX 〇八五二一三二一六一一

印刷所 千鳥印刷(株)

住所 島根県松江市黒田町四八四一五

〒六九〇一〇八七六

電話 〇八五二一七一五五

FAX 〇八五二一七六一七